（様式１）

# 令和5年度　学力向上指導改善プラン

三田市立長坂中学校長　山本　直也

| 学校教育目標 | 「夢の実現に向けて、自ら考え、行動することこころ豊かな生徒の育成」 |
|---|---|
| 推進主体 | 管理職と研究推進担当・生徒指導担当・新学習システム推進教員を中心に学力向上プロジェクト委員会を設置 |

| 学力に関する前年度の状況・経年の課題等 | | | |
|---|---|---|---|
| 学力の状況 | 全国学力・学習状況調査結果の状況（国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む） | 国語 | ○「文脈に即して漢字を正しく書く」ことは、全国平均を6.5ポイント上回っていた。<br>○「助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う」ことは、全国平均を4.8ポイント上回っていた。<br>○生徒質問紙で「国語の授業で学習したことは、将来社会に出た時に役にたつと思う」と肯定的に回答している生徒が87.7%と高く、生徒が意欲的に授業に取り組んでいると言える。<br>●「聞き手の興味関心などを考慮して、表現を工夫する」ことは全国平均を19.9ポイント下回った。<br>●「論理の展開などに注意して聞く」ことは全国平均を19.9ポイント下回った。 |
| | | 算数数学 | ○「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」ことは、全国平均を10.0ポイント上回っていた。<br>○生徒質問紙で「数学の授業で学習したことを普段の生活で活用できないか考えている」と肯定的に回答している生徒が48.8（全国平均47.3%）と高く、生徒が意欲的に授業に取り組んでいると言える。<br>●「反例の意味を理解している」では、全国平均を15.9ポイント下回った。<br>●「1次関数の変化の割合を理解している」では。全国平均を21.8ポイント下回った。 |
| | | ICT機器を効果的に活用した取組状況 | ・ミライシードのオクリンクやムーブノートを活用し、生徒の考えを相互に共有した。さまざまな視点から考えられることに気づき、理解が深まった生徒もいた。<br>・基礎学力が定着するよう、ミライシードのドリルパークを利用した。<br>・動画や画像を視聴し、視覚的な支援を行った。 |
| | 定期テスト、単元テストなどによる状況（各教科） | | ○各教科で基礎・基本を問う問題については、正答率が高い生徒が徐々に増加している。<br>●文章題や資料を活用して解く問題では、問題文を最後まで読まずに解答したり、設問の意図を読み取れていない傾向が各教科に共通して見られる。「聞き取る力」に課題が見られ、今後も、「聞く力」の強化と言語活動の活性化に力を入れていく必要があると考える。 |
| | 授業等からうかがえる状況（各教科） | | ○全教科において語彙力を高め「表現力の育成」を目指して取り組む必要がある。<br>○継続して取り組んできた「学習規律チェック週間」の成果もあり、生徒は全体的に落ち着いた雰囲気で真剣に学習に取り組んでいる。<br>●家庭学習の習慣が身についていない生徒が多いため、継続して予習・復習に意欲的に取り組めるように、工夫・改善を行う必要がある。 |
| 学力向上に係る学習状況・生活習慣等の状況 | 全国学力・学習状況調査の質問紙の状況 | | ○「自分にはよいところがあると思う」に対する肯定的な回答が80.7%（全国平均78.5%）であった。<br>○「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」に対する肯定的な回答が96.7%（全国平均96.4%）であった。<br>●「学校に行くのが楽しい」に対する肯定的な回答が全国平均よりも10ポイント近く低かった。<br>●「人が困っているときに進んで助けている」は肯定的な回答が |
| | 学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況 | | ○基本的な生活習慣につては概ね良好である。<br>○学校の規則を守り、学習意欲についても概ね良好で、いじめを許さない姿勢が全国平均より10ポイント以上高く倫理観・道徳心がとても高い。<br>●携帯・スマホ・PCの使い方について約束を守って使用している割合は高いが、1日の使用時間は長い傾向にある。<br>●計画的に先の見通しを立てて学習する事が苦手な生徒が多く、家庭学習の取り組みに課題がある。 |
| 研究・校内の研修状況 | 校内研究の状況 | | 「表現力の育成」をテーマに①学力向上のための指導法の確立・②小中一貫した教科指導・生徒指導の実施・③道徳教育の充実（自尊感情・規範意識を高める）等の取り組みを推進している。学力向上に向けた授業改善やコミュニケーションスキルの向上、教科横断的な教育計画の充実を図る。 |
| | 校内研修の状況 | | 学力向上を目指し、定期的な職員研修や授業改善に取り組んでいる。学期ごとに公開授業を設定し、意見交流やスキルアップを推進している。 |
| 家庭・地域・校種間連携 | 家庭・地域等の状況 | | ○生活習慣・家庭学習習慣の定着を目指し、校区内で園所連携推進を図り系統立てた取り組みを推進している。<br>●読書量に個人差があるため全体的な読書活動の推進が課題である。 |
| | 小・中における教科連携等の状況 | | ○校区内児童生徒の「目指す子ども像」について共有し、定期的な意見交流の会を開催している。<br>●全国学力・学習状況調査結果の分析を小・中で共有し、児童生徒の実態を踏まえた指導方法について小中合同の研修が必要である。 |

| 学力向上に向けての重点的な目標 | 4月 成果となる目標（指標となる数値等） | 4月 具体的な行動目標（成果目標達成のための具体的な手立て等） | 2～3月 年度末評価（今年度の成果と来年度に向けた課題等） | 評価 |
|---|---|---|---|---|
| 1　課題解決型の授業構成を中心とした授業改善 | ・全国学力・学習状況調査の質問項目において「授業の内容がよくわかる」「勉強の内容がよくわかる」と答える生徒の割合が全国平均より上回る。<br>・数学の活用問題、国語の言語事項の問題で正答率が全国平均より上回る。<br>・学校評価アンケートの質問項目において「授業が分かりやすいように教え方を工夫している」と感じている生徒の割合が昨年度を上回る。 | ・「課題解決型」の授業構成と「めあて」の明確化と「振り返り」活動の充実を全教科で図る。<br>・校内での公開授業を各学期で設定し、教職員が相互に授業参観し反省・検討を重ね、授業力向上を図る。<br>・校内研修会に講師を招聘し、授業づくりの研修を行い指導力の向上に努める。<br>・デジタル教科書の導入やiPadを活用した授業により、主体的・対話的な取り組みを積極的に展開する。 | ・全国学力・学習状況調査の質問項目において、「数学の授業の内容がよく分かる」と答えた生徒の割合が、全国平均を上回った。<br>・全国学力・学習状況調査において、国語、数学、英語ともに「思考・判断・表現力」を問う、問題の正答率が全国平均を上回った。<br>・学校評価アンケートの質問項目において「授業が分かりやすいように教え方を工夫している」と感じている生徒の割合が92%と高かった。<br>・各学期に1回研究授業を行い、夏季休業中に学力向上にむけての校内研修を行った。計4回の研修に同じ講師を招聘したことで、授業改善に向けて教職員の共通理解、共通実践ができた。<br>・今年度成果として向上してきたことを来年度も継続して取り組んでいくことが課題。 | a |
| 2 家庭学習習慣の確立と充実 | ・学校評価における、生徒・保護者アンケートで「家庭学習の習慣ができている」の項目が80%以上の肯定評価となる。<br>・質問紙で、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の質問が「よくしている」「ときどきしている」と答える割合が昨年度を上回る。<br>・家庭学習強化週間や学習規律チェック週間において、生徒の家庭学習時間が昨年度を上回る。 | ・各教科において、基礎的基本的な家庭学習の課題を出すことで、家庭学習の習慣を確立する。<br>・各教科で作成している評価のシラバスを活用し、主体的な学習の取り組みを促進する。<br>・学期ごとに学習チェック週間を設定し、主体的に意識した学習習慣の育成を図る。 | ・学校評価アンケートにおいて、「家庭学習の習慣ができている」と答えた保護者の割合が、63%と昨年度の割合を14ポイント上回った。<br>・全国学力・学習状況調査の質問項目において、「家で自分で計画を立てて勉強していると答えた生徒の割合が、全国平均を10ポイント上回っている。<br>・学校評価アンケートにおいて、「家庭学習の習慣ができている」と答えた生徒の割合が71%と、昨年度の72%とほぼ同じ結果となっている。各教科において、課題の設定を見直し、家庭学習を習慣化させることが課題。 | b |
| 3 学習規律の徹底と学力補充の充実 | ・全国・学力学習状況調査における基本的な問題の正答率が国語・数学・英語ともに全国平均より上回る。<br>・学校評価アンケートの質問項目において、「授業に真剣に取り組んでいる」と答える生徒の割合が昨年度の結果を上回る。<br>・学校評価アンケートの質問項目において「授業内容でわからないことを質問しやすい」の項目で昨年度の結果を上回る。 | ・学期ごとに、1週間の『学習規律チェック週間』を設け、授業前の準備や発表の仕方など、学習規律の徹底を図る。<br>・各教科で単元小テストを実施し、基礎学力の定着を細目に確認する。<br>・兵庫型学習システム教員との打ち合わせ時間を確保し、少人数授業で生徒の課題や授業展開について共通理解を図り、きめ細やかな指導に努める。<br>・給食準備中や放課後の時間帯を活用し、個々の生徒に応じた学習指導を行い、基礎基本の定着を図る。 | ・全国・学力学習状況調査において、国語、英語の「知識・技能」を問う問題の正答率が全国平均を上回った。<br>・学校評価アンケートの質問項目において、「授業に真剣に取り組んでいる」と答える生徒の割合が90%と高かった。<br>・学校評価アンケートの質問項目において、「授業内容でわからないことを質問しやすい」と回答した生徒の割合が79%と、昨年度の割合を9ポイント上回った。<br>・基礎学力に課題が見られる生徒はいる。今後もこまめに小テストを実施し、生徒の実態把握に努めるとともにも、個に応じた学習を行い、基礎学力の定着を図っていく。 | b |
| 4 「表現力の育成」というテーマに沿った研究の推進 | ・全国・学力学習状況調査における記述式の問題の正答率が国語・数学・英語とも全国平均を上回る。<br>・全国・学力状況調査の「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表しましたか」という質問項目において、「発表していた」「どちらかといえば発表していた」と答える生徒の割合が50%を上回る。 | ・各教科の授業で小グループでの活動を充実させ、自分の考えや思いを発表する場面を設定する。<br>・研究授業を行い、授業内での協働学習の在り方について、教員間で意見を交流する機会を設ける。 | ・全国・学力状況調査における記述式問題の数学の正答率が全国平均を上回った。<br>・全国・学力状況調査の質問項目において、「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表した」と答える生徒が、60%いた。<br>・人権作文が三田市の代表として選ばれたり、新聞社が募集しているコラムに生徒の作文が8名分掲載されるなど、様々な分野で、生徒の作文が表彰されるケースが多かった。<br>・「表現力の育成」に焦点を当てた校内研修を計4回行なった。<br>・自分の考えを表現することに抵抗を示す生徒もいる。授業の組み立て方やグループ学習の在り方等、表現する場の設定の仕方について改善点を見つけていく。 | a |
| 5 読書活動の推進と充実 | ・質問紙で「読書は好きですか。」の割合が昨年度を上回る。<br>・図書館の利用状況が昨年度を上回る。<br>・図書館アンケートで「図書館の利用」「読書貸し出し数」が昨年度より増加する。 | ・文化委員会による啓発活動の強化。<br>・学級文庫の充実を図り1，2年で朝の読書活動に取り組む。<br>・各授業での調べ学習時に積極的に図書館を活用する。<br>・国語科によるブックトークやビブリオバトルなど主体的な読書活動の機会作り。<br>・朝読書を各学年積極的に行う。 | ・文化委員による啓発活動と、図書館の積極的な開館のおかげで、生徒たちが興味関心をもった本を読み、主体的に朝読書に取り組むことができた。<br>・年間を通じて、全学年で朝読書を実施した。生徒たちが隙間時間に自主的に読書をするのではなく、毎朝、活字に触れる機会を確保することで、生徒たちの表現力の育成につなげることができた。 | a |
| 6 学力向上に向けた園所連携推進及び、家庭、地域との連携と協働の推進 | ・各学期1回（年間3回）の学校園所連絡会を開催し、中学校区として「目指す子ども像」を確認し、全教職員で共通理解を図る。<br>・小中連携し系統的にキャリア教育の推進する。<br>・学期に1回（年間3回）の学校運営協議会と民生・児童委員連絡会を年間2回開催し、校区全体で協働し生徒を育てる認識を深める。 | ・校区内の児童生徒の「目指す子ども像」の共有と現状の把握、課題の分析を園所連携して取り組む。<br>・系統立てた学びや成長を実感できるキャリアパスポートの活用を推進し、人間関係形成・自己管理能力・課題対応能力の育成を図る。<br>・学校行事、オープンスクールや授業参観の機会を設け、学校・家庭・地域の連携を推進する。 | ・小中学校で「目指す子ども像」を共有し、生徒指導、特別支援教育、人権教育、学校園所連携担当、管理職の部会で、情報共有及び協働共通の取り組みを推進することができた。<br>・学校運営協議会や民生・児童委員代表者連絡会を開催し、学校運営や生徒の学校生活の様子を共通理解し、地域と共に生徒を育成する体制づくりに努めた。<br>・コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響もなくなり、学校評価アンケートの質問項目で「学校行事やオープンスクールなど生徒の活動を参観する機会が充分用意されている。」に対して、保護者の肯定的回答が97．3%と昨年度を大きく上回った。また併せて「各種通信やホームページにより学校情報がよく発信されている。」の質問項目に対しても、肯定的回答が多く、学校の様子を積極的に情報発信ができた。 | a |